

平成 30 年度第 1 回神奈川県立横浜栄高等学校学校運営協議会（記録）

1 日 時：平成 30 年 7 月 6 日（金） 15 時 30 分～16 時 50 分 場所：応接室

2 出席者 （敬称略・順不同）

委員：棚橋信明（委員長）・鈴木武士（副委員長）・菊池かをる（委員）
田村孝章（委員）・竹谷康生（委員）・内田久恵（委員）
松永賢次（委員）大澤一郎（委員）・高橋浩二（委員）は欠席
事務局：西ヶ谷克彦（副校長）・後藤昌英（教頭）

3 協議会

(1) 校長あいさつ

(2) 学校運営協議会について

ア 資料に沿って制度について確認

イ 組織

会長 = 棚橋信明 副会長 = 鈴木武士

評価部会を設置する。

部会長に内田久恵委員を指名する。

ウ 学校運営協議会は 7 月 6 日、11 月、3 月に開催する。

※ 出席者全員賛成で決定

(3) 学校運営についての協議

(校長の説明)

- ・変化が速く先が読めない時代に自ら未来を切り拓く人材の育成を目指す。
- ・アントレプレナーシップ教育を導入するとともに N I E 教育の活用を図る。
- ・外部教育機関と連携した夏季特別講座（英会話、プログラミング）を実施する。
- ・学校運営協議会をテーマコミュニティ化し学校運営を進める。

(質疑)

Q アントレプレナーシップの効果的展開のためには優れたファシリテーターが必要だが、人材確保や育成などについてどのように考えているか。

A 外部人材の活用等を含めて検討しながら展開する予定である。

(意見)

- ・外部教育機関と連携しての夏季講習の成果に期待する。
- ・プログラミング教育は解説書が英文であることなどから外国の方が進んでいる。英語力を向上させる必要性は高い。
- ・英語の外部検定を実施することになると思うが、将来的な活用を考慮して導入すべき検定を決めていく必要がある。

- ・自分の考えを構築し、深めさせる必要を感じている。授業でのN I Eの取組の成果に期待する。
- ・18歳成人制の導入に伴う校内の対応を検討していく必要がある。

※平成30年度の学校運営方針については出席者全員賛成により承認する。

- ・I C Tを活用した授業展開が必要になることから、無線L A Nの設置は必要である。機器等の速やかな設置を県教育委員会に要望する。
- ・生徒の精神的な面での支援の必要性が高まっている。次年度以降の養護教諭の複数配置を県教育委員会に要望する。

※出席者全員賛成により、上の意見を県教育委員会に要望することとする。

4 諸連絡

特になし。